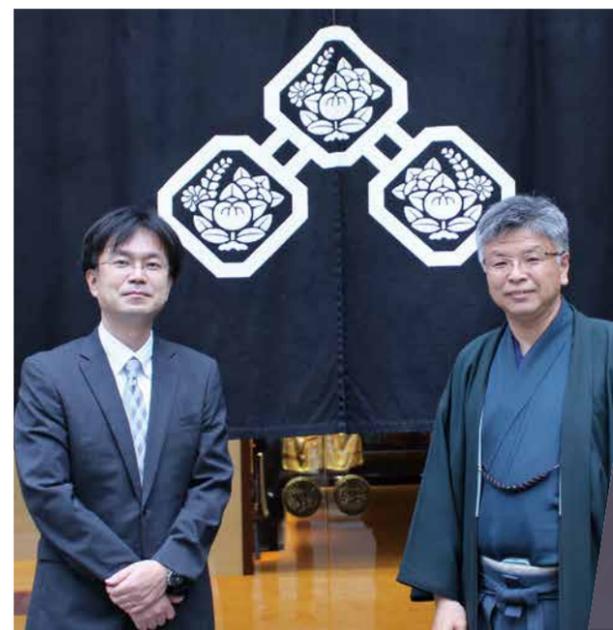




新・文化庁に エール

千總
仲田社長に聞く
「京都で輝く“新・文化庁”」



創業460年を超える京友禅の老舗企業の千總は、きものをはじめ、様々な染織品を手がけています。昨年8月にオープンした千總本店と併設する千總ギャラリーにおいて、京都の街とともに歩み続けてこられた千總文化の魅力や2022年度中に京都における業務開始を目指す新・文化庁へ期待することなどを、文化庁 地域文化創生本部の安井順一郎事務局長が仲田保司社長にお伺いしました。

【文化庁 地域文化創生本部】TEL:075-330-6720(代表) 東山区東大路通松原上ル三丁目毘沙門町43-3

千總文化の魅力をお聞かせください

私は東京出身ですが、30歳代前半で千總に入社して気付いたことは、経済効率を一番に考える東京に対して、京都の人たちは長い歴史と経験の中で培われた、独自の時間軸を持って商売をしているということです。460年を超える千總の歴史の中でも、御装束師としての法衣商から友禅染へと業種を転換してきましたが、一つのことには固執するだけではなく、外的環境に柔軟に適応していくことが老舗企業を継続するための条件だったのではないかと思います。例えば、明治時代に12代当主・西村總左衛門は職人が描く友禅の下絵



千總 仲田社長

を日本画家に依頼し写実的で斬新なデザインを次々と生み出しました。またパリ万国博覧会に美術染織品を出品し受賞、後に海外貿易の基礎を築き、ヨーロッパ、東南アジア、中近東にまで商圏を広げました。いずれの時代の当主も革新的な取り組みを行っていますが、企業理念である「美・ひとすじ」を変えることはありません。私も柔軟な考えを持つ現当主の15代に支えられ、プロダクトデザインの協業やアパレルブランドに千總の技法を提供するなど新たな取り組みに挑戦しています。

京都のきもの文化で千總が大事にされていることは何ですか

友禅が京都で発展してきた理由は、職人の技が優れているだけではなく、宮中行事をはじめ暮らしと

もにある自然や文学などの題材が身近にあり、それを身にまとう知性や教養のある顧客がおられ、そして職人が更に技を磨いていく…というようにこれらが循環しているからであると思います。京都でもコロナ禍では着物をお召しいただく機会が縮小していますが、当社がお客様から評価されている理由はフォーマルの場を大切にしていることにあります。吉祥文様の古典柄がモチーフである上品なものを提供し、単なる着物メーカーではなく京都の染織の職人集団を束ねる染屋として様々な技術を提供することが、千總の矜持であります。技術だけではなく、お召しになった方の場面や思いを継承していくことも大事にしたいですね。

新・文化庁にはどのようなことを期待されますか

伝統的な染織技術の世界でも、使用される原材料や道具が大きく変化しており、どう保存・継承していくかが問題となっています。しかしながら職人ごとに抱えている問題は多岐にわたっており、一つに集約することが難しい現状にあります。技術と

もに原材料や道具に関する有形・無形のアーカイブをネットワークすることも新・文化庁の大切な役割だと思えます。また、私は東京に行くたびに、上野の東京国立博物館の名品ギャラリーに展示されている染織の展示を見るのを楽しみにしており、多くの刺激を受けています。京都国立博物館の平成知新館にも染織をはじめ様々な美術工芸に関する貴重な資料が展示されていますが、特別展開催の際には見られないことが多くあります。是非、京都でも常設の展示スペースがあればうれしいです。

文化庁が京都にやってくるからと言って、京都・関西のためだけに活動するわけではありませんから、是非、京都に移転してよかったですという文化庁ならではの取組みを広く発信してもらいたいですね。



文化庁 地域文化創生本部 安井事務局長

ようこそ!わが社のミュージアムへ

千總の美の源流としてタイムレスな存在である約2万点のアーカイブを紹介する展覧会や、様々な姿を見せる千總の美を歴史、職人技、アート性など多角的な切り口から捉え体験してもらえる企画などを通して、千總の世界観を発信しています。

入館料 無料 開館時間 11:00~18:00 (休館日:火曜・水曜、年末年始、)
展示替え期間

※展覧会の情報についてはHPにてご確認ください
※新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる場合がありますので来館前にお問い合わせください

千總ギャラリー [ちそうギャラリー]

中京区三条烏丸西入御倉町80 千總本社ビル2階 TEL:075-253-1555
<https://www.chiso.co.jp/honten/gallery/>

